

市指定文化財が新たに6件追加されました

津久見の文化財

津久見市教育委員会では、市内に所在する各種文化財の中から、津久見市の歴史や文化、自然を知る上で、特に貴重なものを指定文化財として指定しています。これまで23件の文化財が国・県・市の指定文化財として指定されています。

このたび、4月2日付けで6件の文化財が新たに市指定文化財に指定されましたので紹介します。いずれも当市を代表する貴重な文化財で、歴史的にも民俗的にも価値のあるものです。

長幸無縫塔

中鶴豊治氏所有

中田長幸にある重制の無縫塔(禅僧の墓)。八角形の基礎、竿石、中台、請花・塔身からできており、竿石に、天正3年(1575)と天正6年の年号が戒名と共に刻まれています。



道尾磨崖五輪塔

佐藤頭芳氏所有

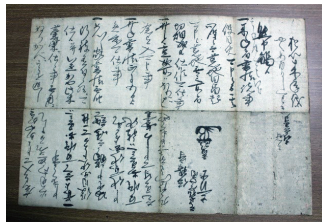
上青江道尾の凝灰岩の岩肌に造られた五輪塔群。残欠部を含め17基が確認されており、慶長から寛永年間を中心に造られたものといわれています。



戸高家文書

戸高照記氏所有

市内千怒の戸高家に伝わった文書群。すべて江戸時代初期の文書で、一般的に農民統制に見るべき点が多く、佐伯藩初代藩主毛利高政から(千怒村小庄屋)喜兵衛に宛てた掟書や触書(家老連書含む)等が主です。



堅浦正調扇子踊り

保持団体 堅扇会

堅浦地区の8月14日のお盆の供養踊りです。津久見扇子踊り(県指定)とは、内容が少し異なっています。堅扇会の人たちは、「踊り」というより「舞」という言い方をしています。扇子踊りの流れをくむものと思われま



高浜のどんど

保持団体 高浜地区

四浦高浜地区に伝わる正月行事。毎年1月14日の年の夜、地区をあげて盛大に行われています。正月に飾った注連縄や松飾りなどを燃やし、その火にあたり、その年の無病息災を祈るものです。



保戸島加茂神社神幸祭

保持団体 保戸島伝統芸能保存会

加茂神社の7月に行われる夏の大祭では、神楽が奉納され、神輿や獅子二頭が島内を巡幸します。島内外から多くの見物客も集まるなど、市内でも有数の祭礼行事となっています。神輿が海に入る光景は、特に有名です。



●問い合わせ先 / 教育委員会 生涯学習課 ☎82-9528